

問 地域づくりへの 社会教育の取組は

答 団体同士の有機的つながりで推進



公明党 議員
うえき しんじゅ 植木 伸寿

問 県内では、公民館を活用した社会教育の取り組みが人材育成や人材の掘り起こしに結びついたとの報告が示されている。また、社会教育は「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を推進する役割も担っていると考えられる。そこで本村の考える社会教育に向けた取り組みなど見解を伺う。また、公民館を活用した社会教育をどう推進しているのか。

答 社会教育の取り組みとして、個人の趣味や教養を深める目的に加え「人づくり」「つ

ながりづくり」「地域づくり」などが重要な使命として位置付けられており、一層の振興が不可欠と考えている。公民館活用については、県内の公民館とは同様の活動が十分ではないが、歴史と未来の交流館をはじめ図書館、公民館、文化センター、スポーツ施設など多彩な活動を互いに連帯し実施している。今後は、複数の団体同士の有機的なつながりを推進し、社会教育の一翼を担いまちづくりの役割や機能を果たしたい。



中央公民館で行われたシニアのための
スマホ講座

問 「なごみ」は廃止せず 存続すべき

答 関係部署と協議し、方向性を決定



おおな みえこ 議員
大名 美恵子

問 村民に身近で十分なじんだ公共施設は簡単に廃止すべきでない。また住民に直接関わるこの大転換は一方的な押し付け型でやってはならない。施設は無くさず、活用する事業を集めて活発な利用を促すことが重要。

答 なごみは、総合相談支援課の移転に伴い、今後の利活用が課題。財政経営課を中心に検討を進めている。なごみの空いているスペースに他の施設で実施している事業を配置転換することも一つの方法と考えるが、村は「東

海村公共施設等総合管理計画」に「将来にわたって現状のサービスを維持していくためには、公共建築物の延床面積換算で25%の削減が必要」と数値目標を掲げており、「公共施設全体の適正配置」の視点を持ちつつ、社会構造の変化等も見極めながら新たな住民サービスの在り方を検討、方向性を決めていきたい。



避難滑り台が設置されている「なごみ」施設

問 これまでの関係課協議の内容は。

答 現状や課題について共有し、喫緊の課題から検討している。